

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	西村 紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

基礎文法の復習を行い、英文法の知識を確立する。
CDを使ったフレーズ練習により、英語の音や日常会話での表現を学び、抵抗なく発話する力を身につける。
毎回語彙テストを行い、語彙を増やすことを心掛ける。

《教科書》

プリント配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

期末試験のフィードバックは希望に応じて行います。

《授業の到達目標》

英語 で学んだ基礎文法を応用して活用できるようにする。
基礎文法をさらに学び、日常の身の回りの事柄について、自分の言葉で発話できるようにする。

《成績評価基準》

基礎文法の応用力が身についているか。
身の回りの事柄について、自分の言葉で発信し説明できるか。
応用に必要な基本的語彙が身についているか。

《成績評価の方法》

筆記試験 30% レポート - %
課題 - % 実技 - %
授業の取組 35%
その他(提出物) 35%

《参考図書》

「英会話の基本文型 87」

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	講座概要と英語基本文型について	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
2	to不定詞(名詞、形容詞、副詞的用法)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
3	比較(原級、比較級、最上級)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
4	受動態	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
5	受動態演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
6	現在完了形(完了、経験、継続)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
7	現在完了形(完了、経験、継続)演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
8	現在分詞	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
9	過去分詞	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
10	現在分詞・過去分詞演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
11	関係代名詞(主格)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
12	関係代名詞(目的格)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
13	関係代名詞演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
14	後期学習内容の総復習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
15	後期学習内容の理解確認	復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)

《基礎科目》

科目名	ポートフォリオデザイン				
担当者氏名	永島 知子、厚川 亮介、西川 真水、久保田 家且、宮島 淳二、高宮 さやか、山本 俊光				
授業方法	演習	単位・必修	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

2年間という短い時間の中でプロフェッショナルとして成長するためには、学んだことをただ「やった」・「できた」・「終わった」で済ませず、さらにまとめ（復習し）、評価し、さらに課題を見つけ出す（予習）につなげることが大切です。そして、間もなく就職・進学という場面を迎えます。いかにプレッシャーしていくかが重要です。自身を振り返り、就職活動に活用できるポートフォリオを作成しましょう。

《授業の到達目標》

- ・自分がこれまでにやってきた様々な体験を整理することができる。
- ・自分自身のポートフォリオをまとめ、作成することができる。
- ・就職活動に向けて準備を行うことができる。
- ・10年後、20年後も充実した生活を送ることができるような人生設計を行うことができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
 課題 50% 実技 %
 授業の取組 50%
 その他 () %

《教科書》

プリントを配布する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

講評や解説の時間を設ける。
 課題（実習のまとめ、表紙等のポートフォリオ）の返却は2週間以内にコメントをつけて返却する。

《成績評価基準》

主に授業の取組と課題提出によるが、授業の取組（参加姿勢）50%、課題提出（ポートフォリオ課題提出）50%で評価する。

《参考図書》

「就職活動ハンドブック」（株式会社ディスコ）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	自己分析	シラバスに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
2	進路ガイダンス：適性検査	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
3	ポートフォリオ8：実習のまとめ	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
4	職能ガイダンス6：社会人から学ぶ/業界の話題	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
5	履歴書の書き方	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
6	ポートフォリオ9：レイアウトの基本と表紙のデザイン	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
7	進路ガイダンス：適性検査結果及び解説	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
8	ポートフォリオ10：実習のまとめ	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
9	メイクアップ講座	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
10	ポートフォリオ11：実習のまとめ	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
11	ゼミナールガイダンス	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
12	マナー講座	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
13	職能ガイダンス7：社会人から学ぶ/業界の話題	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
14	就職活動に向けて(服装編)	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)
15	ポートフォリオ12：全体のまとめと展開	配布したプリントに目を通すこと(1時間) 授業で学んだ内容を各自整理しておくこと(1時間)

《専門科目》

科目名	総合実習				
担当者氏名	高宮 さやか、小才 寛康、厚川 亮介、山本 俊光				
授業方法	実習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。 1-DP4 伝統的で高度な「作庭技術」や「快適な生活環境を創造できる技術」を習得していること。				

《授業の概要》

【自然環境デザイン】

少人数の班編成により、下記の授業計画に基づいて実施する。

《教科書》

労働省職業能力開発局技能振興課監修・全国造園技能検定推進委員会発行『造園施工必携』
各授業の配布プリント

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートを添削し2週間以内に返却する。

《授業の到達目標》

緑化植物の植栽や育成・管理、また造園の骨格をなす石組、各種庭・公園の修景施設工等の実体験を通して、造園技能の基礎を体得すること。専門講義科目で得た知識をフィードバックして実習することにより、理論と実技を関連付け、より実践的な理解を促す事を目標とする。

《成績評価基準》

受講態度と技術習得の度合いとレポートの作成と提出を総合的に評価する。

《成績評価の方法》

レポート 30%

実技 20%

授業の取組 50%

《参考図書》

上原敬二『樹木ガイドブック』朝倉書店
(一社)日本公園緑地協会編集・発行『造園
施工管理技術編』

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	基本石組	予習：庭園の写真集などで石組をみしておく(2時間) 復習：施工したものをラフスケッチする(2時間)
2	滝流れ石組	予習：庭園の写真集などで瀧石組をみしておく(2時間) 復習：施工したものをラフスケッチする(2時間)
3	ピオトープ石組	予習：学会誌などで施工例をみしておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
4	移植	予習：樹木の根系について調べておく(2時間) 復習：掘った根の写真を見てスケッチする(2時間)
5	移植	予習：樹木の根系について調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
6	植生調査	予習：調査予定地(実習場内)を下見しておく(2時間) 復習：現場で見た樹種の特徴を調べる(2時間)
7	植生調査	予習：調査予定地(実習場内)を下見しておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
8	ピオトープ管理	予習：作業予定地を下見し、必要な作業を推定しておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
9	小空間の造形(施工)	予習：今回施工する内容を図面から読み取っておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
10	小空間の造形(施工)	予習：使用する材料の特性を調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
11	小空間の造形(施工)	予習：構造物の基礎について、一般的な設計をみしておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
12	小空間の造形(施工)	予習：庭園内のサインのいろいろなデザインを調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
13	小空間の造形(施工)	予習：庭園によく使われる樹種を調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
14	小空間の造形(施工)	予習：外構によく使われる樹種を調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
15	小空間の造形(施工)	予習：計画図と竣工したものの変更箇所を確認しておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)

《専門科目》

科目名	総合実習				
担当者氏名	高宮 さやか、小オ 寛康、厚川 亮介、山本 俊光				
授業方法	実習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。 1-DP4 伝統的で高度な「作庭技術」や「快適な生活環境を創造できる技術」を習得していること。				

《授業の概要》

【ガーデンデザイン】

少人数の班編成により、下記の授業計画に基づいて実施する。

《教科書》

労働省職業能力開発局技能振興課監修・全国造園技能検定推進委員会発行『造園施工必携』
各授業の配布プリント

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートを添削し2週間以内に返却する。

《授業の到達目標》

緑化植物の植栽や育成・管理、また造園の骨格をなす石組、各種庭・公園の修景施設工等の実体験を通して、造園技能の基礎を体得すること。専門講義科目で得た知識をフィードバックして実習することにより、理論と実技を関連付け、より実践的な理解を促す事を目標とする。

《成績評価基準》

受講態度と技術習得の度合いとレポートの作成と提出を総合的に評価する。

《成績評価の方法》

レポート 30%

実技 20%

授業の取組 50%

《参考図書》

(一社)日本公園緑地協会編集・発行『造園施工管理技術編』
中野正生『ガーデンデザイン入門』

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	草花園芸(色彩)	予習:色の三属性について調べておく(2時間) 復習:草花の色ごとの使い分けを検討する(2時間)
2	草花園芸(堆肥・土壌)	予習:堆肥の種類、土壌の種類について調査する(2時間) 復習:堆肥と土壌の関係を整理しておく(2時間)
3	園芸装飾	予習:草花の取り扱いや配置について事前調査をする(2時間) 復習:うまくいかなかった工程を練習する(2時間)
4	基本石組	予習:庭園の写真集などで石組をみておく(2時間) 復習:授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
5	ガーデン石組(レンガ組積工)	予習:庭園内施設にどのようなものがあるかを調べておく(2時間) 復習:授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
6	草花園芸(花壇)	予習:使用する花苗の科名や原産地等の基礎情報を調査(2時間) 復習:使用した花苗の特徴をまとめる(2時間)
7	草花園芸(播種)	予習:使用する種の特徴や原産地等の基礎情報を調査(2時間) 復習:使用した種の特徴をまとめる(2時間)
8	ハンギングバスケット	予習:前期の実習の反省点を書き出しておく(2時間) 復習:技術力を前期と比べてレポート作成(2時間)
9	小空間の造形(施工)	予習:今回施工する内容を図面から読み取っておく(2時間) 復習:授業で学んだ内容の復習(2時間)
10	小空間の造形(施工)	予習:使用する材料の特性を調べておく(2時間) 復習:授業で学んだ内容の復習(2時間)
11	小空間の造形(施工)	予習:構造物の基礎について、一般的な設計をみておく(2時間) 復習:授業で学んだ内容の復習(2時間)
12	小空間の造形(施工)	予習:庭園内のサインのいろいろなデザインを調べておく(2時間) 復習:授業で学んだ内容の復習(2時間)
13	小空間の造形(施工)	予習:庭園によく使われる樹種を調べる(2時間) 復習:授業で学んだ内容の復習(2時間)
14	小空間の造形(施工)	予習:外構によく使われる樹種を調べる(2時間) 復習:授業で学んだ内容の復習(2時間)
15	小空間の造形(施工)	予習:計画図と竣工したものの変更箇所を確認しておく(2時間) 復習:授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)

《専門科目》

科目名	総合実習				
担当者氏名	高宮 さやか、小才 寛康、厚川 亮介、山本 俊光				
授業方法	実習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。 1-DP4 伝統的で高度な「作庭技術」や「快適な生活環境を創造できる技術」を習得していること。				

《授業の概要》

【造園芸術】

少人数の班編成により、下記の授業計画に基づいて実施する。

《教科書》

労働省職業能力開発局技能振興課監修・全国造園技能検定推進委員会発行『造園施工必携』
各授業の配布プリント

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートを添削し2週間以内に返却する。

《授業の到達目標》

緑化植物の植栽や育成・管理、また造園の骨格をなす石組、各種庭・公園の修景施設工等の実体験を通して、造園技能の基礎を体得すること。専門講義科目で得た知識をフィードバックして実習することにより、理論と実技を関連付け、より実践的な理解を促す事を目標とする。

《成績評価基準》

受講態度と技術習得の度合いとレポートの作成と提出を総合的に評価する。

《成績評価の方法》

レポート 30%
実技 20%
授業の取組 50%

《参考図書》

上原敬二『樹木ガイドブック』朝倉書店
(一社)日本公園緑地協会編集・発行『造園施工管理技術編』

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	コンクリート工	予習：コンクリートの材料について調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
2	基本石組	予習：庭園の写真集などで石組をみておく(2時間) 復習：施工したものをラフスケッチする(2時間)
3	滝流れ石組	予習：庭園の写真集などで瀧石組をみておく(2時間) 復習：施工したものをラフスケッチする(2時間)
4	移植	予習：樹木の根系について調べておく(2時間) 復習：掘った根の写真を見てスケッチする(2時間)
5	移植	予習：樹木の根系について調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
6	蹲踞・灯籠・延段	予習：庭園の写真集などで蹲踞・灯籠をみておく(2時間) 復習：施工したものをラフスケッチする(2時間)
7	蹲踞・灯籠・延段	予習：庭園の写真集などで飛び石や園路をみておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
8	病虫害防除	予習：身近な樹木の病徴を観察する(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
9	小空間の造形(施工)	予習：今回施工する内容を図面から読み取っておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
10	小空間の造形(施工)	予習：使用する材料の特性を調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
11	小空間の造形(施工)	予習：構造物の基礎について、一般的な設計をみておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
12	小空間の造形(施工)	予習：庭園内のサインのいろいろなデザインを調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
13	小空間の造形(施工)	予習：庭園によく使われる樹種を調べる(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
14	小空間の造形(施工)	予習：外構によく使われる樹種を調べる(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
15	小空間の造形(施工)	予習：計画と竣工を比較し変更箇所を確認しておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)

《専門科目》

科目名	ランドスケープデザイン論				
担当者氏名	西川 真水				
授業方法	講義	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

私達を取り巻く環境は大きく「自然環境」と「社会（人文）環境」とに分けられる。緑地環境・造園・ランドスケープの職能域は、この二つの良好な関係を形成していくことに独自性がある。本講義では「モノ」のデザインに終わらない「コト」という状況・現象のデザインとしてのランドスケープデザイン、農村や生物の生息空間から地域、建築、インテリア、プロダクト、最後に国内外のランドスケープデザインまでを横断する。

《授業の到達目標》

造園・ランドスケープのデザインを行うための基礎的なボキャブラリーの意味を説明できる。
 空間・環境におけるデザインの考え方、デザインプロセスの事例や方法の知識を学び、説明できる。
 ランドスケープ・外部空間・緑のデザインのあり方や技術について理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験 70%
 授業の取組 30%

《教科書》

プリントを配布

《課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法》

提出されたノートは、問題点や評価点を記載し返却する。

《成績評価基準》

それぞれ到達目標に対しての配分として 30% 30% 40%を目安とする。
 毎回講義で配布する講義ノートを最終講義終了後提出し評価する。ノートは講義中の記録、キーワード、講義中わからなかった言葉や事項について調べてあるか、レイアウト・記録方法を評価する。

《参考図書》

「ランドスケープデザインの視座」宮城俊作 / 学芸出版社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	イントロダクション	予習：講義要項を熟読しておく(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
2	ランドスケープの世界1：自然環境とその捉え方	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
3	ランドスケープの世界2：人文・社会環境とその捉え方	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
4	ランドスケープエコロジー：自然・共生、緑地・生物	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
5	都市近郊農村と環境のデザイン、都市の水環境	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
6	景観と文化の多様性：庭園の空間デザイン事例	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
7	都市環境とデザイン：地域計画とランドスケープデザイン	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
8	都市環境とデザイン：建築・アーバンデザイン	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
9	身の回りのデザイン：インテリア、プロダクトデザインと環境	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
10	地形とランドスケープのデザイン	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
11	都市・住居と環境のデザイン	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
12	ランドスケープデザインとスケール	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
13	ランドスケープデザインの形態操作と概念操作	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
14	ランドスケープデザインの用強美	予習：前回の講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートの整理と、講義で解説したわからない用語などを調べておく(2時間)
15	まとめ	予習：前回までの講義ノートの確認(2時間) 復習：講義ノートのまとめ(2時間)

《専門科目》

科目名	庭園設計論				
担当者氏名	久保田 家且				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

1. 多くの庭園を設計した経験を活かし、我が国の伝統的日本庭園を構成する諸施設や庭園材料並びに設計手法の詳細を講義する。
2. さらに、実際に設計した庭園の実例を紹介するとともに、その整備された庭園を見せながら講義を行う。

《教科書》

- ・プリントを配布する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

- ・レポート等は、2週間以内にコメントをつけて返却する。

《授業の到達目標》

1. 日本庭園と西洋庭園との相違点や日本庭園の様式及び基本的技法等の知識を習得する。
2. 庭園設計に必要な基礎調査や設計手法を学び・習得することで、単に庭園を整備するだけでなく、庭園の設計もできるようになる。

《成績評価基準》

- ・日本庭園と西洋庭園との相違点を説明することができたか。
- ・日本庭園の様式や基本的技法及び諸施設を説明することができたか。
- ・日本庭園の設計手法を説明することができたか。

《成績評価の方法》

筆記試験 60% レポート 30%
 課題 % 実技 %
 授業の取組 10%
 その他 () %

《参考図書》

「日本の庭園」進士五十八 中央公論新社
 「造園施工管理技術編」(一社)日本公園緑地協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、庭園概論	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
2	日本庭園の様式	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
3	日本庭園の基本的技法	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
4	庭園材料	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
5	庭園施設、工作物	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
6	庭園設計	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
7	庭園設計	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
8	庭園設計	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
9	庭園設計	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
10	庭園設計の実際	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
11	庭園設計の実際	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
12	庭園見学	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
13	庭園設計の実際	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
14	庭園設計の実際	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)
15	まとめ	予習：日本庭園に関する書籍等により予習しておくこと。(2時間) 復習：今回の授業で学んだことを復習すること。(2時間)

《専門科目》

科目名	樹木学実習				
担当者氏名	宮島 淳二、厚川 亮介				
授業方法	実習	単位・必修	1単位・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。 1-DP4 伝統的で高度な「作庭技術」や「快適な生活環境を創造できる技術」を習得していること。				

《授業の概要》

1. 二丈キャンパス樹木園において、「科・属」毎に主要樹種について、鑑定・植栽・育成・管理・鑑賞・造園の用途、暮らし産業的用途等について修得していく。
2. 樹木の押し葉並びに、樹木特性データシートを指定用紙でセットで制作する。
3. 実物鑑定試験を実施し、修得度のみえる化・自覚化につとめる。

《授業の到達目標》

1. 科・属的視点で、樹木の体系的分類がとらえることができるようになる。
2. 実習場での実物識別研修により、樹木鑑定ができるようになる。
3. 社会的ニーズやヒューマンニーズを的確に把握するとともに、豊かなリソースにてリーズナブルな植栽計画を提示できるようになる。

《成績評価の方法》

- 筆記試験 20%
 レポート 20%
 課題 30%
 授業の取組 10%
 その他（実物試験） 20%

《教科書》

「樹木ガイドブック」上原敬二、朝倉書店
 「改訂造園施工管理 技術編」日本公園緑地協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

- ・樹木実物鑑定試験では、70点以上取得できるまで、当日内に連続して受験させて、実力を向上させる。
- ・「押し葉&データシート」課題（全50種）では、1枚（表面・裏面）ずつの面談チェックを行なう。

《成績評価基準》

- (到達目標1、2、3共通)
 ・90～100 極めて達成
 ・80～89 かなり達成
 ・70～79 普通に達成
 ・60～69 まあ達成
 ・59以下 達成できていない

《参考図書》

「日本の樹木」林弥栄監修、山と溪谷社
 「ランドスケーププランツ」浅野二郎ら監修、ワールド出版
 「小学館の図鑑・NEO 植物」小学館

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、海岸林樹木観察	予習：あらかじめ予告の指定テキストページ / 2時間 復習：指定様式・用紙の「授業日報」等 / 2時間
2	樹木増殖、「押し葉&データシート」制作開始	予習：〃 復習：〃
3	樹木各論：まつ科、ひのき科、他	予習：〃 復習：〃
4	樹木園樹木マップ、樹木ラベル制作管理	予習：〃 復習：〃
5	樹木各論：にれ科、もくれん科、他	予習：〃 復習：〃
6	〃：くすのき科、ゆきのした科、他	予習：〃 復習：〃
7	樹木園樹木マップ、樹木ラベル制作管理	予習：〃 復習：〃
8	樹木各論：ばら科、他	予習：〃 復習：〃
9	〃：まめ科、むくろじ科、他	予習：〃 復習：〃
10	樹木園樹木マップ、樹木ラベル制作管理	予習：〃 復習：〃
11	樹木各論：もくせい科、他	予習：〃 復習：〃
12	〃：すいかずら科、他	予習：〃 復習：〃
13	応用樹木実習（樹木活用リース創り、他）	予習：〃 復習：〃
14	樹木実物鑑定試験	予習：〃 復習：〃
15	植栽用途別・耐性別・適性別まとめ	予習：〃 復習：〃

《専門科目》

科目名	環境設計演習				
担当者氏名	西川 真水				
授業方法	演習	単位・必修	4単位・必修	開講年次・開講期	1年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力	1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

前期での学びを踏まえ小空間の設計に取り組む。実際に与えられた諸条件、敷地の条件を読み取り、設計条件を整理しながら、更には社会的要請に配慮し盛り込みながらコンセプトメイクとリアライズ、デザインを進め、提案を行う。ここでは独りよがりなモノとしての「かたち」ではなく、デザインプロセスを重視し、価値ある「かたち」が生まれる流れを学ぶ。同時に、提案に必要な伝えるためのツールづくりにも力点を置く。

《授業の到達目標》

課題条件を読み取り、条件を整理できる。条件を理解し、そこにあるべき空間のコンセプトを組み立てることが出来る。条件、コンセプトを組み立てながら、空間の構造、材料、植栽を検討しながら、課題空間を形としてまとめることが出来る。構想された空間を縮尺1/50~1/10の図面（平面・立面等）を作成することが出来る。プレゼンテーションボード（A1サイズ）をパソコンを使い作成できる。

《成績評価の方法》

課題 85%
授業の取組 15%

《教科書》

プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

課題は 中間及び最終時に発表と講評の時間を設ける。最終的に提出されたプレゼンテーションボードに問題など講評・コメントをつけて返却する。

《成績評価基準》

成績評価の構成は課題成果品85%、演習態度15%とし、到達目標の ~ に対し、授業のそれぞれの課題図面等が 30%、それらをまとめた最終成果物として提出されるプレゼンテーションボードでその内容を精査し総合的に評価を行う。

《参考図書》

造園図面の表現と描法
造園図面の表現と描法 / 野沢清・小坂橋二三男 / 誠文堂新光社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	小空間のデザイン：班ごとにテーマ設定	予習：庭園や公園を訪れ、配布された階段の資料シートを作成する 復習：資料シート用の図面の作成をしておく
2	基本構想：敷地の課題・問題点と測量	予習：庭園や公園を訪れ、配布された階段の資料シートを作成する 復習：資料シート用の図面の作成をしておく
3	計画平面図：デザインコードの設定	予習：庭園や公園を訪れ、配布された階段の資料シートを作成する 復習：資料シート用の写真の整理をしておく
4	"	予習：平面図の書き方を予習しておく 復習：資料シート用の写真の整理をしておく
5	"	予習：平面図の書き方を予習しておく 復習：問題点の修正
6	詳細図及び材料数量表	予習：配布資料を熟読しておく 復習：問題点の修正
7	" 及び工程表	予習：配布資料を熟読しておく 復習：問題点の修正
8	施工計画書作成	予習：配布資料を熟読しておく 復習：問題点の修正
9	断面詳細図	予習：断面図について書き方を予習しておく 復習：問題点の修正
10	"	予習：問題点を修正した断面図を描いておく 復習：修正点の整理
11	"	予習：問題点を修正した断面図を描いておく 復習：修正点の整理
12	積算と見積り	予習：配布資料を熟読しておく 復習：問題点の修正
13	積算の方法	予習：配布資料を熟読しておく 復習：問題点の修正
14	CAD 図面作成	予習：パソコンの使い方を予習しておく 復習：パソコンの使い方を復習しておく
15	CAD 図面作成とプレゼンテーションの作成	予習：CAD の使い方を予習しておく 復習：問題点の修正

《専門科目》

科目名	コンピュータ実習				
担当者氏名	松本 静香、永島 知子、厚川 亮介				
授業方法	実習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	1年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。 1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

パーソナルコンピュータを使ったプレゼンテーションの基礎を学ぶ。社会ではパソコンを操ることは、特別なことではなく、最低限必要な技術となっている。この科目では、パソコンの使い方やプレゼンテーションの技術を、ポートフォリオの作成と設計演習等のプレゼンテーションを通じて学んでいく。

《教科書》

プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

2回目以降は前の回に課した課題の講評や振り返りなどを行う。

《授業の到達目標》

コンピュータの使い方をマスターしポートフォリオを完成することができるようになる。

《成績評価基準》

主に課題提出と授業の取組によるが、課題提出70%、授業の取組（参加姿勢）30%で評価する。

《成績評価の方法》

課題 70%
授業の取組 30%

《参考図書》

情報活用力（noa 出版）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	CAD 復習 基本操作	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
2	作図したオブジェクトの編集	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
3	作図したオブジェクトの編集	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
4	作図したオブジェクトの編集	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
5	画層の設定・作成	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
6	CAD 図面への文字の作成	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
7	寸法の設定・作成	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
8	CAD 図面印刷方法	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
9	CAD 図面作成	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
10	CAD 図面作成	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
11	CAD 図面作成	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
12	建築・土木 CAD 図面応用	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
13	建築・土木 CAD 図面応用	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
14	建築・土木 CAD 図面応用	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）
15	情報処理と情報理論	予習：配布したプリントに目を通し、熟読すること（2時間） 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておくこと（2時間）

《専門科目》

科目名	測量学				
担当者氏名	田上 博				
授業方法	講義	単位・必選	4単位・選択	開講年次・開講期	1年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

測量とは、地表・地中・空中など人間の生活領域における所定の位置関係の情報を、要求される精度を考慮しながら処理し、数値や図（地図や図面）で表現することです。測量学は、造園・林業技術者にとっても国土開発・保全・利用の計画・設計・施工に欠くことが出来ない重要な学問です。関数電卓は必ず必要です。

《教科書》

堤 隆著「測量学」（コロナ社）
プリントを配布します

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

課題の返却は、2週間以内にコメントをつけて返却する。

《授業の到達目標》

造園・ガーデンデザイン・自然環境の仕事につく際に必要となる平板測量や水準測量や角測量など、最低限の知識を身につけることを目標にします。

《成績評価基準》

前期、後期とも筆記試験を実施する。評価の配分は試験70%、課題30%とする。

《成績評価の方法》

筆記試験 70%
課題 30%

《参考図書》

吉澤 孝和著「図解 測量学要論」
（日本測量協会）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	角測量について	予習：測量で扱う角、角度測定機 について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
2	角測量について	予習：角の観測について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
3	角測量について	予習：誤差とその取扱いについて熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
4	閉合トラバース測量	予習：多角測量の種類、手順、観測について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
5	閉合トラバース測量	予習：各種計算について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
6	閉合トラバース測量	予習：誤差調整について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
7	結合トラバース測量	予習：各種計算について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
8	結合トラバース測量	予習：誤差調整について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
9	結合トラバース測量	予習：偏心観測について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
10	求積	予習：面積算定、分割・境界調整 について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
11	求積	予習：体積算定について熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	三角測量	予習：事前にプリントを配布するので熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
13	三角測量	予習：事前にプリントを配布するので熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
14	三角測量	予習：事前にプリントを配布するので熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
15	まとめ	予習：事前にプリントを配布するので熟読しておくこと。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	測量実習				
担当者氏名	田上 博、厚川 亮介				
授業方法	実習	単位・必修	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 伝統的で高度な「作庭技術」や「快適な生活環境を創造できる技術」を習得していること。				

《授業の概要》

測量学で学んだことを実際に行うことで、より深く理解するための実習です。測量の手順や器械の操作方法はもちろんのこと、観測したデータの処理方法を含め、実践的な実習を二丈キャンパスで行います。前期の最後には、環境設計演習で設計する実習用地の測量を行い、総合実習で、設計したものを施工する。関数電卓が必ず必要です。

《授業の到達目標》

測量機器を使って測量ができるようになること。平板、オートレベル、セオドライトの操作をマスターする。

《成績評価の方法》

筆記試験 40%
課題 30%
授業の取組 30%

《教科書》

細川 吉晴他著「よくわかる測量実習」（コロナ社）
プリントを配布します

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

日報・課題の返却は、2週間以内にコメントをつけて返却する。

《成績評価基準》

前期、後期とも筆記試験を実施する。評価の配分は実習の取組30%、日報及び課題の評価30%、試験40%とする。

《参考図書》

吉澤 孝和著「図解 測量学要論」
（日本測量協会）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	セオドライトの取り扱い	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
2	単測法	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
3	単測法	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
4	単測法	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
5	倍角法	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
6	倍角法	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
7	倍角法	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
8	実技試験	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
9	トラバース測量	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
10	トラバース測量	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
11	トラバース計算	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
12	トラバース計算	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
13	製図	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
14	製図	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要
15	まとめ	予習：実習内容に対し1時間程度の予習が必要 復習：実習内容に対し1時間程度の整理・復習が必要

《専門科目》

科目名	エコロジー概論				
担当者氏名	厚川 亮介				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。 1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

植物などの生物を扱う緑地環境のデザインや管理には生態学の素養が必要であるため、生物の構造や機能、生物相互の関係や進化の歴史、生物とそれを取り巻く環境、人間生活と生物との歴史的な関係について解説した上で、生態学を意識した緑地環境の造成と管理の例として「ピオトープ」について解説する。本学科が樹木学に重きを置くことから林業という側面にも触れながら「森林生態学」を解説する。

《授業の到達目標》

エコロジーを理解する上で必要な用語の意味を理解し、その用語を使った的確な文章表現ができるようになる。実際に造園設計や花壇設計を行う中で、「エコロジー」を意識した設計ができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験 60%
レポート 40%

《教科書》

「絵でわかる生態系のしくみ」鷲谷いずみ、講談社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートは提出後速やかに採点し、コメントを添えて返却するとともに、返却後、回答例を授業で解説する。

《成績評価基準》

・レポート
期限内に提出し、80%を超える正答率であること。
・筆記試験
筆記試験のみで評価はできない。レポートの成績と合算して60%以上の得点であること。

《参考図書》

「生態学入門」原口昭編著、生物研究社
「グリーンセイバー 植物と自然の基礎を学ぶ」岩槻那津男監修、研成社、「樹木医の手引き」(財)日本緑化センター

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス 身近な自然に目を向ける力	予習:生態学に関する書籍、ニュース等から予習しておく(2時間) 復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
2	草と木の形と生活	予習:教科書「光を求める/避ける、植物の順化」、「土壌シードバンク」の頁に目を通しておくこと(2時間)復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
3	樹木の生き方・上陸から被子植物の繁栄まで	予習:生態学に関する書籍ニュース等から予習しておく(2時間) 復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
4	世界の森林・日本の森林	予習:教科書「バイオーム」、「日本のバイオーム」の頁に目を通しておくこと(2時間)復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
5	植物の分布・暖かさの指数	予習:教科書「バイオーム」、「日本のバイオーム」の頁に目を通しておくこと(2時間)復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
6	植生遷移・自然林と二次林	予習:教科書「クレンジンと遷移説」、「遷移と遷移説」、「拡大造林がもたらした生態系の不健全化」目を通しておく(2時間)復習:今回学んだ内容を復習しておく(2時間)
7	里山生態系と竹林拡大問題	予習:教科書「氾濫原の自然と水田」、「植物資源の利用管理と生物多様性」の頁に目を通しておくこと(2時間)復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
8	物質循環とエネルギーの流れ	予習:「窒素が循環する生態系」、「炭素の貯留と循環」、「生態系を流れるエネルギー」に目を通しておく(2時間)復習:今回学んだ内容を復習しておく(2時間)
9	生物濃縮と江戸の循環型社会	予習:参考書等から予習しておく(2時間) 復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
10	適応・生物間相互作用	予習:「動物の温度環境への適応」、「共生関係を豊かにした生態系」等に目を通しておく(2時間)復習:今回学んだ内容を復習しておく(2時間)
11	松枯れにみられる複雑な共生関係	予習:「樹木医の手引き」等樹木の病害に関する参考書に目を通しておく(2時間) 復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
12	生物の多様性と外来生物	予習:教科書「外来種はなぜ強い」、「外来種によるさまざまな影響」に目を通しておくこと(2時間)復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
13	生物多様性と絶滅危惧種	予習:教科書「絶滅のおそれのある動植物」、「日本での絶滅のおそれの高まり」に目を通しておくこと(2時間)復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)
14	ピオトープとミチゲーション	予習:教科書「生態系修復=自然再生の先駆け」~「富栄養化と流域における生態系修復」に目を通しておく(2時間)復習:今回学んだ内容を復習しておく(2時間)
15	まとめ	予習:教科書、配布資料、ノートなどに目を通しておくこと(2時間) 復習:今回学んだ授業内容を復習しておく(2時間)

《専門科目》

科目名	植物病理学				
担当者氏名	清水 進				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。 1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

植物と病原との相互関係を中心に植物の病気について説明します。また、植物の病気の診断法および植物の病気に対する防御戦略を解説致します。動物と同じように植物にも病気があります。身近な植物の病気を材料に講義を致しますので、積極的に授業に参加して下さい。

《教科書》

「最新・樹木医の手引き」日本緑化センター

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

課題の返却は、2週間以内にコメントをつけて返却する。

《授業の到達目標》

植物を取り扱う上で必要な、植物の病害の原因、発生する諸条件、病気の防除方法といった病理学の基礎的な知識の習得を目指します。このことにより、植物の病気の診断ができ、より効果的な防除法の選択が可能になる。

《成績評価基準》

植物の病害の原因、発生する諸条件、病気の防除方法の理解度（筆記試験）と授業への取組により評価する。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
授業の取組 20%

《参考図書》

「植物病理学」東京化学同人

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	植物の病気と人間生活(1)	予習：植物の健康状態の観察・2時間 復習：今回学んだ授業内容を復習しておく・2時間
2	"(2)	予習：ジャガイモ疫病・2時間 復習：植物の健康・2時間
3	"(3)	予習：イネいもち病・2時間 復習：ジャガイモ疫病・2時間
4	発病とは、病徴と標徴	予習：病徴と標徴・2時間 復習：イネいもち病・2時間
5	感染メカニズム、伝染	予習：感染メカニズム・2時間 復習：病徴と標徴・2時間
6	病原の種類と特徴(1)	予習：ウイルスとは・2時間 復習：感染メカニズム・2時間
7	"(2)	予習：細菌とは・2時間 復習：ウイルスとは・2時間
8	"(3)	予習：菌類とは・2時間 復習：細菌とは・2時間
9	環境条件と病気の発生	予習：環境条件と病気・2時間 復習：菌類とは・2時間
10	病気の診断	予習：病気の診断法・2時間 復習：環境条件と病気・2時間
11	主な植物の病害と防除法(1)	予習：ウイルス病防除・2時間 復習：病気の診断法・2時間
12	"(2)	予習：細菌病防除・2時間 復習：ウイルス病防除・2時間
13	"(3)	予習：菌類病防除・2時間 復習：細菌病防除・2時間
14	まとめ(1)	予習：各種病原の特徴・2時間 復習：菌類病防除・2時間
15	"(2)	予習：主な病害の防除法・2時間 復習：各種病原の特徴・2時間

《専門科目》

科目名	土壌肥料学				
担当者氏名	(未定)				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。 1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

前半で植物の生育基盤である土壌に関する講義を行い、土壌の緑化上の問題点を整理した後、後半でこれを改良するための手段として肥料について講義する。

《教科書》

「最新・樹木医の手引き」財団法人日本緑化センター

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

質問については、適宜受付。その場で回答します。

《授業の到達目標》

植物生育の基盤である土壌の性質や構造を学び、併せて植物の生育を促す肥料に関する知識を身に付ける。

《成績評価基準》

試験及び授業出席率、受講態度

《成績評価の方法》

筆記試験 50%
授業の取組 50%

《参考図書》

「土壌肥料用語辞典」農文協

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	土壌のでき方と土壌生成因子	予習：シラバスを熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
2	土壌層位と識別区分	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
3	わが国の森林土壌の分類	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
4	土壌の生物的環境	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
5	土壌の化学的環境	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
6	土壌の物理的環境	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
7	土壌断面調査と土壌診断	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
8	土壌調査と診断の実際	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
9	緑化における土壌の問題	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
10	土壌改良の対象	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
11	土壌改良の資材	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	植物に必要な養分	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
13	肥料の種類および性質	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
14	各要素の欠乏・過剰に対する植物の反応	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
15	まとめ	予習：教科書を熟読しておくこと(2時間) 復習：今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	造園土木材料論				
担当者氏名	宮本 淑子				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

造園植物以外の造園で使用する全ての材料を対象に、種別ごとの特徴や性質を論じるとともに、写真等を提示しながら、教員及び学生同士のコミュニケーションを図る。
更に、授業の後半には庭園現地調査を行い、知識で得たものの実際に確認するなど、造園土木に関する材料に対する興味と知識を深めることを目的とする。

《教科書》

「造園施工管理技術編」
日本公園緑地協会造園施工管理委員会編
適宜、プリントを配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

現地調査ではレポートの提出を課すが、2週間以内にコメントをつけて返却する。

《授業の到達目標》

造園樹木以外の造園及び土木材料の種類や性質などを理解し、造園設計や施工する際に適切な材料と、これから将来にむけて持続可能なもの(SDGs)も踏まえた柔軟な考え方で材料を選択できる造園家を目指した知識の習得を目標とする。

《成績評価基準》

主に筆記試験によるが、現地調査等の課題提出10%で評価する。

《成績評価の方法》

筆記試験 80% レポート 10%
課題 % 実技 %
授業の取組 10%
その他 () %

《参考図書》

適宜、紹介する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス 土と土壌	教科書とシラバスに目を通し、関連項目を確認する(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
2	土壌改良材	教科書「造園施工管理技術編」P.165~170を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
3	石材 石造添景物等の加工品	教科書「造園施工管理技術編」P.171~186を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
4	木材 木材の防腐処理と加工品	教科書「造園施工管理技術編」P.187~192を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
5	竹材 金属材料	教科書「造園施工管理技術編」P.196~202を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
6	セメント コンクリート	教科書「造園施工管理技術編」P.203~207を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
7	コンクリート二次製品	教科書「造園施工管理技術編」P.212~213を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
8	合成樹脂材料	教科書「造園施工管理技術編」P.217~216を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
9	接着剤 レンガ、タイル等	教科書「造園施工管理技術編」P.221~225を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
10	塗料 アスファルト等	教科書「造園施工管理技術編」P.225~233を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
11	その他結束材料 電気、給水施設材料	教科書「造園施工管理技術編」P.234~236を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	現地調査	今まで写真や図で見たもの(第1回から第11回まで)を再確認しておく(2時間)
13	現地調査	今まで写真や図で見たもの(第1回から第11回まで)を再確認しておく(2時間)
14	現地調査を踏まえての 振り返り	教科書「造園施工管理技術編」P.154~236を熟読しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
15	まとめ	授業の1回目から14回目の総復習。

《専門科目》

科目名	草花と園芸				
担当者氏名	山本 俊光				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

草花を中心として、園芸学の基本的な理解を図る。

《教科書》

農学基礎シリーズ『園芸学の基礎』鈴木正彦編著者2021農山漁村文化協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

小テストを行った場合は、正解を提示し考え方を説明する。

《授業の到達目標》

- 1 植物の性質及び植物が育つ条件を原生地から見通すことができるようになる
- 2 植物の性質及び植物が育つ条件を生理学から考えられるようになる
- 3 植物の器官について基礎的な名称、役割が理解できる
- 4 日本の園芸の発達について基礎的な素養を身につける

《成績評価基準》

植物について理解が深まったかどうか、筆記試験とノート整理にて評価する。

《成績評価の方法》

筆記試験 80% レポート %
 課題 % 実技 %
 授業の取組 %
 その他(ノート) 20%

《参考図書》

『園芸・植物用語集』(土橋豊)淡交社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
2	日本の園芸の発達と現状	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
3	園芸植物の分類	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
4	植物の成長と環境 1	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
5	植物の成長と環境 2	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
6	植物の器官 1	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
7	植物の器官 2	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
8	植物の器官 3	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
9	植物の器官 4	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
10	植物の器官 5	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
11	植物の生理 1	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
12	植物の生理 2	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
13	植物の学名	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
14	ガーデンテクニック	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。
15	まとめ	植物図鑑や教科書に目を通す(1時間) 学習した内容の部分を整理し、教科書に目を通す(1時間)。

《専門科目》

科目名	緑地管理実習				
担当者氏名	高宮 さやか、小才 寛康、厚川 亮介、山本 俊光				
授業方法	実習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。 1-DP4 伝統的で高度な「作庭技術」や「快適な生活環境を創造できる技術」を習得していること。				

《授業の概要》

二文キャンパスおよび福浜キャンパス内の剪定、植栽等の年間作業を通して、各季節ごとに必要な維持管理を学ぶ。また学外での生産地見学、公園見学等により維持管理の現場と実際に学び、森林での植生調査により植生を学ぶ。

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートを添削し2週間以内に返却する。

《授業の到達目標》

本実習は花と緑の緑地環境の維持管理の視点から緑地の管理技術・技能を実際の作業を通して学ぶ。

時間の制約上、植物の生理生態の基礎の実地と栽培管理、庭園を管理するための基本的実技、花を中心とした彩のある空間管理、植物以外の生き物のための空間管理を学ぶことに重点を置く。また総合実習と連携した実習を行うことで効果的に管理の知識と技術を身につけることを目標とする。

《成績評価基準》

受講態度と技術習得の度合いとレポートの作成と提出を総合的に評価する。

《成績評価の方法》

レポート 30%
実技 20%
授業の取組 50%

《参考図書》

厚生労働省職業能力開発局技能振興課監修・全国造園技能検定推進委員会発行『造園施工必携』 花葉会編集・講談社発行『フラワーランドスケーピング』

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	花壇整備	予習：雑草の種名を10種程度調べておく(2時間) 復習：除草した雑草の特徴をまとめる(2時間)
2	見学実習	予習：見学予定地について下調べをしておく(2時間) 復習：見学した内容のレポート作成(2時間)
3	見学実習	予習：見学予定地について下調べをしておく(2時間) 復習：見学した内容のレポート作成(2時間)
4	草花園芸	予習：使用する花苗の科名や原産地等の基礎情報を調査(2時間) 復習：使用した花苗の特徴をまとめる(2時間)
5	移植	予習：樹木の根系について調べておく(2時間) 復習：掘った根の写真を他種と比較する(2時間)
6	マツの手入れ(古葉落とし、剪定)	予習：自然樹形のマツと仕立物のマツを観察しておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
7	病虫害防除	予習：身近な樹木の病徴を観察する(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)
8	小空間の造形(施工)	予習：今回施工する内容を図面から読み取っておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
9	小空間の造形(施工)	予習：使用する材料の特性を調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
10	小空間の造形(施工)	予習：使用する材料の特性を調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
11	小空間の造形(施工)	予習：構造物の基礎について、一般的な設計をみておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
12	小空間の造形(施工)	予習：庭園内のサインのいろいろなデザインを調べておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
13	小空間の造形(施工)	予習：庭園によく使われる樹種を調べる(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
14	小空間の造形(施工)	予習：出来上がった空間の維持管理を推測する(2時間) 復習：授業で学んだ内容の復習(2時間)
15	小空間の造形(施工)	予習：計画と竣工を比較し変更箇所を確認しておく(2時間) 復習：授業で学んだ内容のレポート作成(2時間)

《専門科目》

科目名	企業実習				
担当者氏名	(専任)				
授業方法	実習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

実務を通じて造園・園芸・自然環境など緑地技術・技能・知識のレベルアップにつなげる。 業界の最新知識や動向を得る。 企業の実践的な考え方と仕事の進め方を習得する。 社会人としての心構えおよびビジネスマナーを習得する。 就職活動の一環等を目的に造園・ガーデン・エクステリアの設計・施工・管理運営・園芸栽培・販売など、造園・園芸・自然環境に関連する分野での実習を行う。

《授業の到達目標》

企業実習を通じてキャリアデザインを明確にすることができる。

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

実習報告書、実習日報は、2週間以内にコメントをつけて返却する。

《成績評価基準》

評価は研修先の受け入れ担当者の評価(実習評価表)と実習報告書、実習日報をもとに担当教員が学則27条の規定に基づいて評価を行う。

《成績評価の方法》

その他(報告書・日報等) 100%

《参考図書》

「短大生の就活編」株式会社ディスコ

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	事前研修・安全教育	予習：企業研究をすること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
2	企業との打ち合わせ	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
3	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
4	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
5	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
6	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
7	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
8	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
9	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
10	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
11	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
12	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
13	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
14	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)
15	企業・団体の現場での研修	予習：前日の企業での研修内容を把握すること(1時間) 復習：学んだ内容を復習・整理しておくこと(1時間)

《専門科目》

科目名	環境ボランティア演習				
担当者氏名	山本 俊光				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。 1-DP3 「環境」を学び地域に貢献できる技術を習得していること。				

《授業の概要》

基本的に時間割授業ではなく、学外授業が多い。土曜日、日曜日、夏休み等に行う。ポイント制に基づく選択授業である。

唐人町商店街活性化を図るワークショップ、自然環境保全の観点から海岸におけるマツの間伐や植林、国体道路花壇整備など地域の問題や活性化に関わっていく授業である。

《授業の到達目標》

- 1 社会職責感を養う。
- 2 ボランティア活動を通して社会性、積極性を養う。
- 3 社会的な課題に敏感になり、社会問題に関心をもつ。

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート50%
課題 % 実技 %
授業の取組50%
その他 () %

《教科書》

特になし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

参加ごとにレポートを課す。最後に返却する。

《成績評価基準》

5回以上の参加と5回以上のレポート提出が基準。
参加態度、レポートの内容により評価される。

《参考図書》

『ボランティア時代の水泥のまちづくり』（進士五十八著）
東京農業大学出版会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	総合ガイダンス	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
2	ボランティア概論	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
3	環境ボランティア概論	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
4	当仁中学校壁面緑化1	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
5	当仁中学校壁面緑化2	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
6	オープンガーデン1	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
7	オープンガーデン2	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
8	国体道路花壇整備1	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
9	国体道路花壇整備2	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
10	福浜キャンパス整備	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
11	二丈キャンパス整備	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
12	海の中道海浜公園 マツの管理	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
13	唐人町商店街クリスマス リース作り	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
14	庭園見学と管理	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。
15	福岡市植物園 ワークショップ	ボランティアやエコツーリズムに関連する書籍を読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)。

《専門科目》

科目名	検定読解				
担当者氏名	高向 有理				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

N2に合格できる読解力を身に付けるために日常的な場面で使われる日本語を理解できるようにする。短文・中文の内容理解、統合理解、長文の主張理解、情報検索の読解演習をする。

《教科書》

N2読解スピードマスター

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

翌週の授業で文章中の語彙や文法を小テストで確認し、フィードバックをする。

《授業の到達目標》

- ・幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、易しい評論など、論旨が分かりやすい文章を読んで文章の内容を理解することができる。
- ・一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや言いたいことを理解することができる。
- ・N2に合格する。

《成績評価基準》

- ・期末テストで6割以上、毎回の小テストでは8割以上を求める。
- ・小テストを受けていない場合は減点対象とする。

《成績評価の方法》

筆記試験 50% レポート %
 課題 % 実技 %
 授業の取組 50%
 その他 () %

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	内容理解(短文)150字~200字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
2	内容理解(短文)150字~200字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
3	内容理解(短文)150字~200字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
4	内容理解(中文)500字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
5	内容理解(中文)500字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
6	内容理解(中文)500字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
7	統合理解、600字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
8	統合理解、600字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
9	統合理解、600字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
10	主張理解、900字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
11	主張理解、900字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
12	主張理解、900字ぐらい	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
13	情報検索	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
14	情報検索	授業のプリントの復習。指定された語彙や文法、例文を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
15	演習問題	授業のプリントの復習。

《専門科目》

科目名	検定文法				
担当者氏名	入江 千治				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

N2 レベルの日本語文章を理解するための文法を学ぶ。例文を読んで、意味と接続の関係を理解しながら文法を学んでいく。その上で、機能語をマスターし、文の形や構造をしっかりと把握する練習を積む。

《教科書》

耳から覚える文法トレーニングN2

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

翌週の授業で文章中の語彙や文法を小テストで確認し、フィードバックをする。

《授業の到達目標》

- ・文の内容に合った文法形式かどうかを判断することができる。
- ・文章の流れに合った文かどうかを判断することができる。
- ・N2 に合格する。

《成績評価基準》

- ・期末テストで6割以上、毎回の小テストでは8割以上を求める。
- ・小テストを受けていない場合は減点対象とする。

《成績評価の方法》

筆記試験 50% レポート %
課題 % 実技 %
授業の取組 50%
その他 () %

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	文の文法 文法形式の判断	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
2	文の文法 文法形式の判断	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
3	文の文法 文法形式の判断	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
4	文の文法 文法形式の判断	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
5	文の文法 文法形式の判断	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
6	文の文法 文の組み立て	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
7	文の文法 文の組み立て	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
8	文の文法 文の組み立て	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
9	文の文法 文の組み立て	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
10	文の文法 文の組み立て	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
11	文章の文法	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
12	文章の文法	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
13	文章の文法	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
14	演習問題	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
15	演習問題	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を理解し、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。

《専門科目》

科目名	検定文字語彙				
担当者氏名	志田 華奈子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

日常的な場面で使われる日本語を理解するための語彙を学ぶ。特に気持ちや様子を表す形容詞や副詞にポイントを置いて学ぶ。言語知識だけでなく、N2の読解や聴解問題に役に立つ語彙を身に付けるために演習を積む。

《教科書》

N2新完全マスター文字語彙

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

毎回小テストを実施し、フィードバックする。

《授業の到達目標》

・日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができるようになる。
・N2に合格する。

《成績評価基準》

・期末テストで6割以上、毎回の小テストでは8割以上を求める。
・小テストを受けていない場合は減点対象とする。

《成績評価の方法》

筆記試験 50% レポート %
課題 % 実技 %
授業の取組 50%
その他 () %

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	動詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
2	動詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
3	形容詞・名詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
4	形容詞・名詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
5	形容詞・名詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
6	副詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
7	副詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
8	副詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
9	副詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
10	副詞	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
11	慣用表現	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
12	慣用表現	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
13	慣用表現	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
14	演習問題	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。
15	演習問題	授業の復習。授業で学習したテキストの範囲を覚え、次回の授業で実施される小テストで最低8割の点数がとれるようにする。

《専門科目》

科目名	ビジネスコミュニケーション				
担当者氏名	井上 しづ恵、高藤 純子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力					

《授業の概要》

時事用語やビジネス用語をきちんと理解し、常識を身に付ける。表やグラフ、統計を理解し、問題を提起できるようにする。新聞記事などを読んで、課題を見つけ、解決につながる糸口を提起できるようにする。

《教科書》

ビジネス能力検定ジョブパス2級

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

毎回演習問題を解き、授業内で解説する

《授業の到達目標》

- ・ インターンシップ前におさえておきたいビジネス知識やビジネスマナーを理解することができる。
- ・ 仕事に役立つ論理力を養うことができる。
- ・ 時事用語やビジネス用語を理解することができる。
- ・ 表やグラフを見て、問題発見や分析ができる。
- ・ ビジネス能力検定2級に合格する。

《成績評価基準》

授業での演習を通して、ビジネス能力検定2級レベルの知識、思考力、分析力を身につけることができたかを評価する

《成績評価の方法》

筆記試験 40% レポート %
 課題 % 実技 %
 授業の取組 60%
 その他 () %

《参考図書》

適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	キャリアと仕事へのアプローチ	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
2	会社活動の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
3	話し方と聞き方のポイント	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
4	接客と営業の進め方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
5	不満を信頼に変えるクレーム対応	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
6	会議への出席とプレゼンテーション	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
7	チームワークと人のネットワーク	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
8	仕事の進め方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
9	ビジネス文書の基本	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
10	統計・データの読み方、まとめ方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
11	情報収集とメディアの活用	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
12	会社数字の読み方	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
13	ビジネスと法律・税金知識	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
14	産業と経済の基礎知識	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する
15	知識・読解・分析などの総括	予習は必要なし。授業で扱った演習問題を理解し、類似問題が解けるように復習する

《専門科目》

科目名	ビジネスプレゼンテーション				
担当者氏名	志田 華奈子、高藤 純子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

プレゼンテーションは、授業での口頭発表、就活、仕事上の企画や報告など様々な場面で必要とされるスキルである。またプレゼンテーションには、発表のテクニックだけではなく、論理的思考および文章力も必要になる。この授業ではプレゼンテーションとは何かを理解し、伝えたいことを論理的に考察し、適切な音声・スライド・文章表現などを身につけて発表できるスキルを身につける。

《授業の到達目標》

- ・目的に応じて効果的な文章表現を作成し、プレゼンテーションを設計することができる。
- ・聴き手を意識したわかりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。
- ・文章作成や発表を通して、適切な音声やスピードで人前で話すスキルや批評力を身につける。

《成績評価の方法》

授業内発表 40%
課題 30%
授業の取組 30%

《教科書》

適宜プリントを配布する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

コメントをつけて返却する。

《成績評価基準》

- ・目的に応じて効果的な文章表現を作成し、プレゼンテーションを設計することができたか。
- ・聴き手を意識したわかりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができたか。
- ・文章作成や発表を通して、適切な音声やスピードで人前で話すスキルや批評力を身につけることができたか。

《参考図書》

- 『1分で話せ』伊藤羊一（SBクリエイティブ）
- 『大学生のための日本語表現トレーニング』橋本修（三省堂）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
2	プレゼンテーションの基本	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
3	プレゼンテーションの基本 (PREP法)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
4	プレゼンテーションの基本 (根拠とは)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
5	レポートを書く (テーマの動機付け)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
6	レポートを書く (段落構成の作り方)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
7	レポートを書く (文章作成)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
8	実習 (プレゼンテーション作成)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。(30分)
9	実習 (中間発表)	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。(30分)
10	相手に伝わる話し方	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章を推敲する。(30分)
11	プレゼンテーションのテクニック	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。(30分)
12	プレゼンテーションのテクニック	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。(30分)
13	プレゼンテーションのテクニック	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。(30分)
14	授業内発表	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。(30分)
15	発表評価と振り返り	予習：提示された課題について調べておく。(30分) 復習：配布資料を熟読し、自らの文章とスライドを推敲する。(30分)

《専門科目》

科目名	実践的プログラミング演習				
担当者氏名	柿山 達哉、常岡 直樹				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

実践的なマクロを自らアイデアを出して設計する。
上記設計の基づいてExcelシートを作成する。
作成したExcelシートのプレゼンテーション資料を作成する。
自分の作成したExcelシートのプレゼンテーションを行う。

《教科書》

今すぐ使えるかんたんエクセル2019
井上香緒里著
技術評論社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

個人ごとに課題に対する評価レポートを提示し、説明する。

《授業の到達目標》

自分で実用性のあるマクロ機能を使ったExcelシートを設計し、完成させることができる。

《成績評価基準》

- ・授業に対し意欲的に取り組んでいたか。
- ・課題に対して真摯に取り組むことができたか。
- ・出席率、予習、復習を重視します。

《成績評価の方法》

課題 60%
授業の取組 40%

《参考図書》

適宜紹介します

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	課題マクロ作成 課題の内容説明	予習：なし 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
2	課題マクロ作成 アルゴリズム解説	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
3	課題マクロ作成 表とグラフのデザイン	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
4	課題マクロ作成 表とグラフのデザイン	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
5	課題マクロ作成 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
6	課題マクロ作成 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
7	課題マクロ作成 個別指導	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
8	課題マクロ作成 作成課題の提出	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
9	自由課題マクロ作成 自由課題の決定	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
10	自由課題マクロ作成 コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
11	自由課題マクロ作成 コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
12	自由課題マクロ作成 コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
13	自由課題マクロ作成 コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
14	自由課題マクロ作成 コーディング実習	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)
15	自由課題マクロ作成 成果発表	予習：前講義で配布したプリントをあらかじめ読んでおくこと。(20分) 復習：理解できなかったこと等整理して、次の講義までに講師に質問する。(20分)